

平成24年度 第2回道徳教育について考える会 協議概要

日時：平成24年7月27日
9:00～12:00
場所：ピュアリティまきび

協議題

これからの道徳教育の具体的な方向性
(1) 道徳教育の施策について
(2) 道徳教育の成果・評価の指標について

(1) 道徳教育の施策について

岡山県の道徳教育

【めざす子ども像】

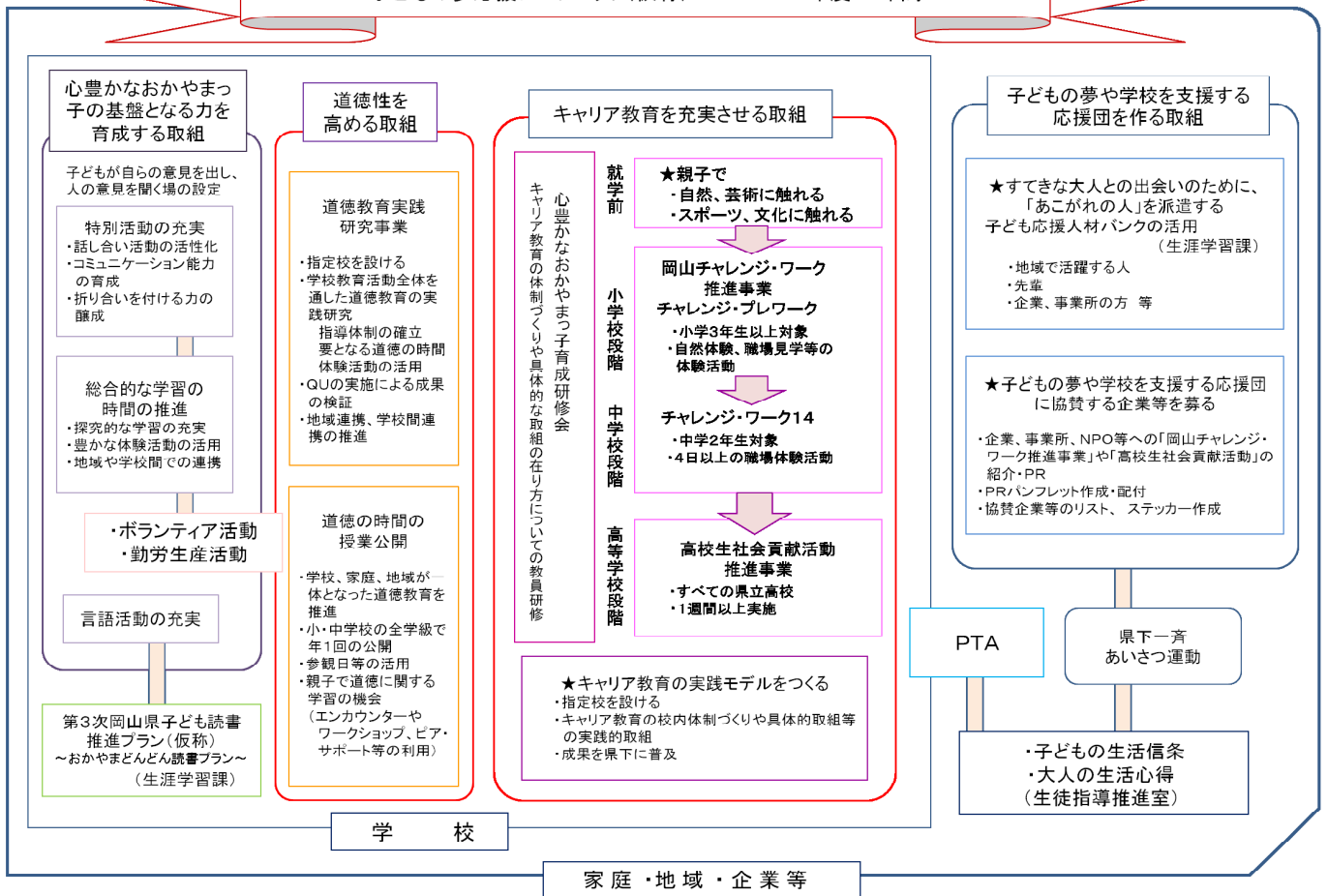
心豊かなおかやまっ子の育成
生きる力～豊かな人間性～

よりよく生きようとする子ども

豊かな人間関係を構築できる子ども

規範意識の高い、他人を思いやる子ども

子どもの夢応援プロジェクト(仮称) H25～27年度:3年間



《 心豊かなおかやまっ子の基盤となる力を育成する取組 》

○話し合い活動

- 子どもたち一人一人は意見はもっているが、相手に伝わらないことが多い。伝えるべきことを伝えようとするシチュエーションの設定が必要である。
- 「自分の意見を出す」「相手の意見を聞く」「何かをつくり出す」を一方通行ではなく、双方向で行うことが大切である。

○これから必要となる教育

- これからの時代は共働きが確実に増えるので、小さいときからワーク&ライフバランスを含めた男女共同参画の教育を取り入れてほしい。

- ・メディアリテラシーについて、親子で研修する機会を取り入れてほしい。乳幼児期からのメディア・コントロールが必要で、メディアがすべて正しいのではないという意識が大切である。

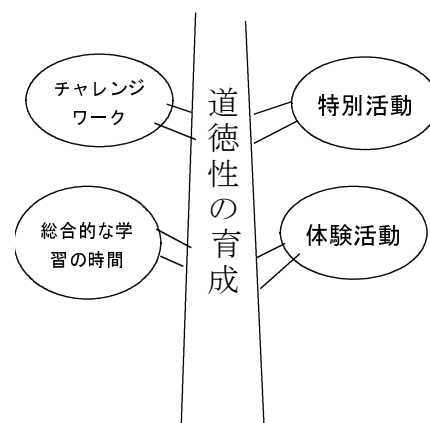
○ボランティア活動

- ・厚生労働省から「ボランティア協力校」として3年間の指定を受けたあとも、市町村で独自に継続している学校園が多くある。(県内：幼21園、小124校、中42校、高10校)
- ・何をもち「ボランティア活動」なのか。人と人との交流を目的とする活動に限るならば受け入れ先の数が足らなくなるだろう。何気ない日常の中の裏方としての働きもボランティアである。
- ・疑似体験等の体験活動、アルミ缶・プルタブ・ペットボトルのふた等の収集活動、募金活動等もボランティア活動に入る。

《 道徳性を高める取組 》

○道徳性を高めるために

- ・「徳」とは、社会生活をきちんとみんなで生活していくために必要なもので、時間をかけて修練して身に付けるもの。この修練が「道徳教育」である。家庭では個性、学校では社会性を身に付ける。
- ・右図のように、道徳性を高めることが根幹であり、両サイドの活動は道徳性の育成と双方向のものである。
- ・道徳教育は、人格の根幹の教育であり基礎なので、全ての先生が道徳的な視点で指導をすべきである。
- ・道徳教育について、先生が共通認識（道徳的な視点と多様な価値観を認める視点）をもつためには先生の意識改革が必要であり、県としても積極的な働きかけをしていかなければならない。
- ・道徳性を高めるためには「養って高める」という意識での発達段階に応じた取組が必要である。



○教員の資質向上のために

- ・研究指定校における実践成果を教員の研修に反映させ、効果的に県下に広めていく方法を探っていかなければならない。
- ・指定校が自らの取組の成果を学校全体に普及するように力を入れたらどうか。保護者や子どもたちによいところが伝わっていない。
- ・研究指定校の成果は、研究発表会に参加した先生には伝わる。参加できなかった先生にどう広めていくかが課題である。
- ・ホームページに研究成果のダイジェスト版のようなものを掲載し、いろいろなところで周知すると、広く県内の先生が利用できる。
- ・学校現場ではミドルリーダーが不足気味で、教員のキャリアに応じた研修が必要である。それらに関する教育センターの研修（道徳やキャリア教育）をもっとPRするとよい。

《 キャリア教育を充実させる取組 》

- ・キャリア教育は、生きていくための基礎的なスキル（技能）である。
- ・社会貢献活動は、やって終わりではなく事後が大切である。活動を受ける側の立場に立つなど視点を変えることによって、より活用できる。
- ・親子で同じものに触れる活動が大事。就学前から自然に触れる活動（自然体験）をしっかりとさせたい。
- ・子どもの中にわき上がる意欲は満足度と相関しており、意欲と満足との連鎖の形成には大人の働きかけが不可欠だ。

《 子どもの夢や学校を支援する応援団を作る取組 》

○学校・家庭・地域の連携

- ・保護者が見直すべき点を見直し、改善することが道徳性やマナーの向上につながる。保護者と学校が一生懸命になれば相乗効果を生む。
- ・PTAこそ、学校と子どもの一番の応援団であるべきだ。表に出ることはないが、つかず離れず、応援し続けることが大事だ。
- ・保護者を巻き込んでいかないと何も変わらない。一番身近な「すてきな大人」は保護者である。親を巻き込むことを仕組む必要を感じる。

- ・ P T A活動のお知らせをHPやメールですると、学校への要望も書き込める。
- ・ 通信物、配布物の届き具合をチェックする体制を、子どもたちや先生を巻き込んでつくる。学校におまかせ、子どもにおまかせではなく、保護者が動くことが大切だ。
- ・ 学校での教育活動の全てを育てたい子ども像に照らして、可視化して子どもや保護者、地域へ発信すべきだ。

(2) 道徳教育の成果・評価の指標について

《 道徳教育の成果・評価の考え方 》

- ・ 道徳的になるとは、自律的になることで、それは、時間がかかり、計量は難しい。
- ・ 道徳性と学力は密接に関連しているので、学力の伸び率が道徳性を評価する一つの資料になる。
- ・ 一つの評価項目では取組の全体を十分には評価できないので、取組の各要点に対応する評価項目をそれぞれ設けて、取組と評価を連動させるとよい。県として、施策や取組に対しての指標になるような絞った評価項目を設けることが必要である。
- ・ インプットだけでなくアウトプットも必ず取り入れ、表現活動重視で評価を考えるとよい。
- ・ 道徳性の変化は、ボランティア活動や環境保全活動への取り組み方に現れる。
- ・ 「見える化」しないと何も分からないが、全てを計量的に評価するのはいかなものか。求める倫理観や価値観をパターン化しておき、子どもの倫理観や価値観がどのパターンに当てはまるかをアンケートを用いて明らかにして評価することも可能だ。
- ・ 子どもは、自分で自分を振り返ることにより変容する。自分はこれでいいのだろうかというような、子ども自身による意識改革につながる明確なものを子どもに示す必要がある。
- ・ 学校単位での評価の指標としては、学校評価の中の子どもへのアンケートが活用できる。アンケートにより、子どもが意識してよりよくなろうとすることが大切だ。
- ・ 基本的な生活習慣の変容は数値化でき、基本的な生活習慣から他者との関係や集団の中での自分が見取れる。

《 指標となり得るもの 》 上段：事務局原案（現況値）、下段：委員からの意見

	取組の成果	子どもの姿の変容
基盤となる力を育成する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級活動における話し合い活動の時間の割合 ・ ボランティア活動に取り組んだ学校数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合（夏ボラを含む） ・ 1日に30分以上読書をしている児童生徒の割合 (H23 小：38.7% 中：28.4%) ・ 地域の行事に参加している児童生徒の割合
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り活動、異年齢・異学年の活動に取り組んだ学校数 	<p>→「子どもの夢や学校を支援する応援団を作る取組」へ移した方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの話を最後まで聞けるか ・ 自分の気持ちを話すことができるか ・ 何かをしてもらったとき「ありがとう」、失敗したとき「ごめんなさい」と言えるか
道徳性を高める取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の時間を全学級公開した学校の割合 (H23 小：48.0% 中：30.1%) ・ ボランティア活動や環境保全活動への取組状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係や当番の仕事を最後まで責任をもってしているか ・ みんなで決めたルールを守っているか ・ 当たり前前のことが当たり前前にできるか

キャリア教育を充実させる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ・ワーク14の4日以上の実施率 (H23 中: 46.9%) ・チャレンジ・プレワークの実施率 ・キャリア教育全体計画、年間計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標をもっている子どもの割合 (H23 85.8%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の見通しがもてる取組の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の仕事について知っているか ・自分にとってのロール・モデル (行動や基本の模範的な人) はいるか ・誰かの役に立てることに喜びを感じているか

応援団を作る取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども応援人材バンクの登録者数 ・協賛企業数 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人に出会ったときに挨拶をしている子どもの割合 (H23 自分からする: 54.8% されれば返す: 32.6%)
	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が参加 (参画) する学校行事 ・PTAの活動状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で話をする時間